



楽しく身の丈に合ったまちづくり 好きらてよいた

長田道周 51歳

まちづくりには多様な形があると思いますが、私達「好きらてよいた」は与板町にある色々な団体の活動をサポートし、情報を発信することを目的とし、まちづくり活動をしてきました。お船の里まち歩き、天地人マンガ制作、お船のイメージソング「風のだまゆら」制作、ふらりと与板まちあるきガイドブックなどもそうです。そんな活動を通じ私なりに考えて来た事があります。まず、まちづくり活動は始めから大きな事をするのではなく、無理のない継続できる活動である事、そして何よりも楽しくある事と考えます。確かに計画から準備の間は苦勞もあり、疲れるものである。しかし、幅広い年齢層の中で同じ目的を持った人と行動する事は自然と笑いが出てくるものであり、楽しい時間ですね。そして、訪れたお客様に喜んでいただいた時、苦勞が喜びに変わる瞬間です。イベントを終了し、反省会を開き次回への向上を図る事も大切ですね。そして何よりも労を労っての慰勞会は至福のひと時です。

この町には多くのまちづくりへのアイデアがあると思います。私はこれからも楽しみながら自分の身の丈に合ったまちづくりを続けていきたいと思っております。

市民団体の目指す姿 好きらてよいた

与板支所産業建設課 小林 隆 44歳

与板地域の住民活動団体「好きらてよいた」は、地域が一体となって活動し、住民の活動量が地域活性化のバロメーターになると、住民達が自ら呼びかけして設立された団体。「好きらてよいた」の最も素晴らしいところは「活動量」。企画・立案・運営まで全て住民の手で行い、「楽しく行う」事がモットー。一般的な住民活動団体とは根本的に姿勢が違う。自分達で色々な事をやっているから自信もあるし経験もある。そして何よりも住民同士のつながり（ネットワーク）がすごい。行政はあくまでも住民活動のお手伝いや、苦手な分野等をフォローするのみ。行政が主体であっては地域としての地域住民の主体性が損なわれてしまう。「好きらてよいた」の取り組み姿勢は、長岡市が目指す市民団体の姿であると思う。



Ⅱ 市民協働 story Ⅱ

「好きらてよいた」のメンバーは、自分たちの住むまち「与板」が大好きです。「好き」の目で見ると地元は魅力的な資源がたくさん有ることに気づきます。資源を磨いてもっと光らせて、地元以外の人を引き付けたいと様々な仕掛けを考えます。行政には無い地元の人ならではのネットワークとフットワーク。それに賛同し、共に活動しているのが支所の方々です。